

川内原発の稼働を今すぐ停止せよ！ 玄海原発再稼働申請を取り下げよ！

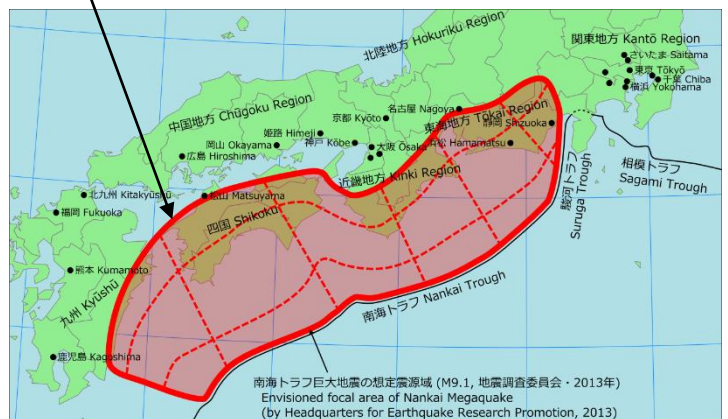
伊方原発動かすな！

＝伊方原発＝
左から1, 2, 3号機
1号機は廃炉決定



◇こんなところ
にある原発を、
稼働などしては
ならない！

伊方原発が、7月26日にも再稼働されようとしています。みなさん、再稼働反対の声を挙げましょう！



伊方原発は愛媛県伊方町にあり、四国の最西部、佐田岬半島の付け根付近に位置する瀬戸内海に面しています。四国電力が保有する四国地方唯一の原子力発電所です。四国電力が今回再稼働を強行しようとしているのは3号機です。伊方原発3号機は、出力89万kwの加圧水型軽水炉で、玄海原発3号機と同じ、とりわけ危険とされるMOX燃料（ウラン・プルトニウム混合酸化物）を使うプルサーマル発電の原発です。ウランに比べて燃えやすいプルトニウムを、ウラン燃料に混ぜ合わせてつくられた燃料を使いますから、通常運転時も制御が難しく、事故になれば暴走の危険が高くなります。そんな原発が、南海トラフ巨大地震の震源域となる可能性のある場所にあるのです。2013年5月24日に地震調査研究本部地震調査委員会が発表した「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版）」においては、従来の東南海地震・南海地震の想定震源域よりも広い範囲が南海トラフの地震での想定震源域として示されました。それによると、伊方原発の間近も震源域となる可能性が高まっています。過去にはこの想定した範囲内の一部の領域が震源となってM8級の大地震も起こっています。想定震源域全体が震源となった場合は、M9.1の巨大地震となる見込みも示されました。政府にある中央防災会議の「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ」の中間報告（2012年7月）では、南海トラフで想定される最大クラ

NO NUKES！ 核と人類は共存できない！ 2016/07/17

スの巨大地震を「東日本大震災を超え、国難ともいえる巨大災害」としています。M8-9クラスの地震が30年以内に発生する確率を60-70%とし、最悪死者数33万人と予想しています。しかも、伊方原発の北側の沖合6-8キロの海底には、日本最大の断層帯を構成する中央構造線が東西に走っています。この中央構造線は熊本・阿蘇・大分地方の地震を発生させた断層帯に連なっており、四国を走るこの断層帯が、新たな巨大地震の震源となる危険性も指摘されています。このように見ると、こんな場所に原発などあってはならないことは明白です。今、伊方原発3号機を再稼働するなどもつてのほかです。私たち人間は、地震も津波も防ぐことは出来ません。防災・減災を考えるならば、原発再稼働などせず、廃炉への道を進むことが、何よりも求められています。

玄海原発再稼働 STOP! 天神街宣やろうぜ!

再稼働を止めるため、以下の行動に是非ご参加ください。

と き：7月24日(日)、8月20日(土)、28日(日)

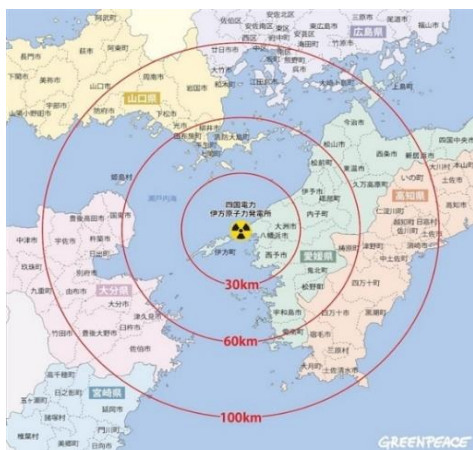
午後2時~3時

ところ：福岡市天神コア前

※マイクアピールと署名活動、ビラ配りを行います。予定の場所が使用できない場合は、近隣の場所で街宣します。

〈主催：戦争と原発のない社会をめざす福岡市民の会〉

◇愛媛・大分県民は、再稼働反対です。それは、国民の声でもあります!



愛媛新聞が実施した県民世論調査(7月3~5日)によると、伊方原発の再稼働の是非について「再稼働すべきでない」「どちらかという反対」と否定的な回答が計54.2%となり、再稼働に肯定的な回答の計37.4%を16.8ポイントも上回りました。大分合同新聞社が実施した電話世論調査(7月3~5日)では、伊方原発の再稼働について、大分県内有権者回答者の59.5%が否定的でした。愛媛県民、大分県民の多くが再稼働に不安をおぼえ、反対しています。しかも、今策定されている避難計画は、机上の空論です。伊方町から海路避難をするとされている住民は、最大で5千人です。伊方原発は、東西約50キロの佐田岬半島の東の付け根近くにあり、ですから重大事故が起きれば、半島の5千人の住民は海路で避難することになります。道路は急な山の斜面に沿う県道のみであり、巨大な地震や津波があれば、道路が寸断されるかもしれません。たとえ港までたどり着けたとしても、船や港が被災し、船が使えない場合もあるかもしれません。台風その他の荒天のために海路避難が無理な場合もあるかもしれません。そのような場合、5千人の命をどう守るといえるのでしょうか。受け入れる側の大分県では、愛媛県知事が再稼働に同意した昨秋以降、日出、別府、中津、国東、豊後高田、杵築、竹田、由布、臼杵などの市町議会が、再稼働の中止、再稼働に際しての周辺自治体の同意の条件化、実効性のある避難計画の策定などを求める意見書を可決しています。地震と津波、さらには原発事故の複合災害を想定するならば、それらの意見書が可決されることはごく当たり前であると言わねばなりません。むしろ遅すぎる、緩すぎる意見書と言ってもいいかもしれません。伊方原発を再稼働させないことが、愛媛・大分県民、ひいては日本国民の命を守る最良の選択です。

◇再稼働撤回の声を届けよう!

人間は、地震や津波や火山活動を止めることはできません。しかし、原発を止めることはできます。伊方原発再稼働の撤回を求めましょう。

戦争と原発のない社会をめざす福岡市民の会

Tel: 080-8353-5792 (工藤)

E-mail: no_war_no_genpatsu_fukuoka@yahoo.co.jp

http://no-war-no-genpatsu-fukuoka.iimdo.com/

○四国電力株式会社 佐伯 勇人社長

〒760-8573 香川県高松市丸の内2番5号

Tel: 087-821-5061

FAX: 087-825-3018

○愛媛県 中村時広知事

〒790-8570 愛媛県松山市一番町4丁目4-2

Tel: 089-941-2111 Fax: 089-945-4211

○伊方町 山下和彦町長

〒796-0301 愛媛県西宇和郡伊方町湊浦1993番地1

Tel: 0894-38-0211 Fax: 0894-38-1373